

第5学年2組 未来創造科 学習指導案

日 時 令和5年10月17日 13:00～13:45

指導者 塚田 直樹

1 探究課題 松江市の森林をよりよくしようと働いておられる方の想いや願いに対し、自分たちに何ができるだろうか。

2 単元名 ふるさと森林プロジェクト ～未来へつなごう松江の森林～

3 授業構想と探究への手立て

島根県は、県の総面積 67 万 ha のうち、森林の面積は 52 万 ha あり、78%の割合を占めている。この森林率は全国4位であり、島根県は全国有数の森林県である。その中で、松江市の森林率は52%で、県内では一番低い割合になっているが、市内の中心部以外には森林が広がっている。本学年の子どもたちのほとんどが市内の中心部に住んでおり、普段の生活の中で森林を身近に感じる経験はほとんどない。森林は私たちの生活になくてはならないものだが、子どもたちは普段の生活で使っている机や棚などが森林とつながっていることを意識することはあまりない。また、「森林＝田舎」のイメージをもっている子どもも多く、自分たちの生活とは遠く離れた存在となっている。まして、林業に携わる人々は、子どもたちにとって、意識の外にある存在である。

これらのことを踏まえ、本単元は、子どもたちが森林のよさや林業に携わる人々の想いや願いに触れる学習活動を通して、森林の活用や林業について自分たちができることを考え、行動していくことを目指し、学習を構想した。本単元は次の4つの小単元で構成されている。

小単元1『『森林』と私たちの生活との関わりは?』では、森林のイメージマップをもとに、自分たちの生活と森林がどのように関わっているのかという課題を設定した。情報収集では、森林保全の啓発を行っている、もりふれ倶楽部の方と紙作り体験や炭作り体験をした。また、附属幼稚園の頃から樹木を通して交流があった島根大学の山下先生から、樹木についての話を聞いた。そして、もりふれ倶楽部の方と山下先生から学んだことや感じたことなどを、ベン図やYチャートに整理し分析した。実際に体験したり専門家から森林について詳しく話を聞いたりすることで、森林をより身近に感じたり、森林のすばらしさを感じたりすることができた。まとめとして、再度、森林のイメージマップを作成した。始めに作成したイメージマップより、森林に対する見方が広がったイメージマップを作成することができた。

小単元2「誰が木を伐っているの?」では、まず、自分たちが生活で使っている木や木製品などは、どのようにして自分たちのもとに届いているのかを予想し、さまざまな人が関わっていることに気付くようにした。そこから、私たちが木製品を使うまでに、誰がどのようなことをしているのだろうかという課題を設定した。そこで、森林を管理したり樹木の伐採をしたりする森林組合の仕事に焦点化し、情報収集を行った。県の農林水産部林業課が発行するパンフレットをもとに調べるだけでなく、松江市森林組合の人に話を聞いたり、島根大学の三瓶演習林で樹木の伐倒の見学をしたりすることで、実感を伴った学びになるようにした。調べたことを、整理・分析していくことで、松江の林業のよさだけでなく、林業に携わる人たちが抱える課題にも気付くことができた。そこで、実際に、松江森林組合の方から松江の林業の現状や林業に携わる人たちの想いや願いを聞く場を設定し、ここで感じたことを次の課題設定に繋げていった。

小単元3「自分たちにできることは何だろうか?」では、松江市の森林をよりよくしようと働いておられる方の想いや願いに対し、自分たちにできることを考え、実践していく。活動の具体を探究の過程に沿って次に記す。

○課題設定①の場面では、松江の森林をよりよくしている人たちの想いや願いに対して、自分たちにもできることは何かないのだろうかという課題を設定した。子どもたちは、これまでに調べたり、体験して感じたりしたことをもとに、松江の森林を未来につないでいくために、さまざまな相手に伝える活動を行う必要性を実感した。

○情報収集①の場面では、これまでの学習で関わった方々から得られた事実を改めて見直した。

○整理・分析①の場面では、これまでの学習で関わった方々の想いや願いに対して、伝える活動の目的を「木材を使ってほしい」「森林の魅力や大切さを知ってほしい」「林業で働く人が増えてほしい」の3つに整理した。そして、同じ目的をもつ子ども同士でグループを組み、「いつ」「どこで」「だれに」「何を」「どのように」の視点で伝える活動を具体的にどのようにしていくのかについて話し合った。話し合いでは、自分たちにどのようなことができるのかを考えるために、これまでの学習や社会科などの他教科での学習を関連付けながら、思考ツールを使って整理・分析し、自分たちがすることを決めていく。

- 課題設定②の場面では、これまで自分たちで考えてきた活動を、さらによりよいものにしていくためにはどうすればよいのかを考えていく。そのために、整理・分析①の場面で決めた活動を、これまでの学習で関わりのある森林の専門家の方々に意見をもらう場を設定する。そこでの意見をもとに、今のままでは目的を達成するには不十分であることに気付き、さらによりよいものにしていきたいという想いを高めていきたい。
- 情報収集②の場面では、自分たちの目的に合った情報を得るために、それぞれで情報収集を行う。例えば、林業の魅力伝えるポスターを作るために、森林組合の方にインタビューを行ったり、木製品の良さを調べるために、木製品を作っている方に作り方を教えてもらう体験活動をしたりする。
- 整理・分析②の場面では、情報収集②で得た新たな情報をもとに、よりよい伝える活動になるようにつくり直していく。思考ツールを使って話し合いをしたり、考えたことを実際にやってみたりするなど、試行錯誤しながら実践を進めていくことで、探究的な学びを深めていくことができると考える。
- まとめ・表現の場面では、グループごとに設定した場で、これまでに計画してきた伝える活動を実施する。校外で木製品作りの体験会を開いたり、林業の魅力を紹介する動画を作って SNS で発信したりすることが考えられる。子どもたち一人一人が自分で考えた伝える活動の目的が達成できるように、一人一人が自分の目的や役割を自覚して活動に臨みたい。

小単元4「自分たちの活動を振り返ろう」では、これまでの学習を振り返り、成果や課題、改善点をまとめていく。そして、これまで本単元の学習を支えてくださった方たちに自分たちの学習のまとめを伝え、感想やアドバイスなどをしてもらい、これからの松江の森林や林業について語り合う。また、今年度の未来創造科で身に付けた力を確認し、来年度の未来創造科に繋がるようにする。

本時までには、子どもたちは林業に携わる方の想いや願いを知り、それらを伝える活動をしていきたいと考えている。①木材を使ってほしい、②森林の魅力やよさを知って、森林を大切にしてほしい、③林業で働く人が増えてほしいという3つの視点で伝える目的をまとめている。

本時は、それらの目的に合う方法を根拠をもって決定する時間である。同じ目的を選んだ子ども同士で集まり、どのような方法を選んだか、クラゲチャートをもとに、その理由を話し合ったり比較したりすることで、根拠をもって目的に合う方法を考えることができるようにする。グループごとの話し合いの様子を見取りながら、複数の視点で根拠がある方が目的の達成に向けてよりよいことを共有して、話し合いを進められるようにする。グループ内で話し合った後は、決定した方法を理由付きでスプレッドシートに各自がまとめることで、根拠をもって目的達成のための方法が定まるようにする。学習の振り返りとして、「目的に応じて根拠を持って伝える方法を決めることができたか」「決まったことを次の学習でどうしていきたいか」の2つの視点でスプレッドシートに記入できるようにする。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①森林のよさや現状、課題を知り、豊かな森林を未来へつなぐために工夫して働いておられる方がいることと、自分たちの生活が関わっていることを理解している。 ②一つの仕事の周りには、様々な職業が絡み合っていることを理解している。 ③活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらかつまとめる方法が分かっている。 ④林業に隣接する分野や関連する分野があることへの理解は、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①森林を未来へつなぐために働いておられる人の想いや願いに対し、現状や理想との隔たりから課題を設定し、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②自分たちにできることの実践に向けて必要な情報を、手段を選択して収集している。 ③実践に向けて収集した情報を取捨選択したり、複数の情報を比較・関連付けたりしながら、解決に向けて整理・分析している。 ④体験したり調べたりしたことをもとにして、相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①課題の解決に向けて、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②森林を未来へつなぐために働いておられる方や友だちの想いや考えなどを生かしながら、協働して問題解決に取り組もうとしている。 ③課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、森林を未来につなぐために粘り強く取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全体 70 時間 本時 24/50 時間）

※その他 13 時間は縦割り班活動，7 時間は宿泊研修で演習林に関わる内容

小単元名（時数）	探究の過程	主な学習活動	評価規準及び評価方法	
1 「森林」と私たちの生活との関わりは？ (9時間)	課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「森林」からイメージマップを作る。 ・紙作り体験を通して，森林にふれる。 ・もりふれ倶楽部の方のお話を聞き，島根が森林県であることを知る。 ・森林がどのように利活用されているか調べる。 ・炭作り体験を通して，森林にふれる。 ・もりふれ倶楽部の方のお話を聞き，里山の暮らしや，循環型林業の大切さを知る。 ・宿泊研修で三瓶を登山し，森林にふれる。(中止となったため小単元②で別の体験活動) ・大学の山下先生のお話を聞き，樹木のすばらしさや循環型林業の大切さを知る。 ・二人のお話のつながりを考える。 ・「森林」のイメージマップを改めて作る。 	知① 思② 知① 知① 思③ 知①	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・Jamboard ・発言
2 誰が木を伐っているの？ (10時間) (社会科「林業」の学習も開始)	課題設定 情報収集 整理・分析 情報収集 整理・分析 まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが生活で使っている木や木製品などは，どのようにして自分たちのもとに届いているのかを予想する。 ・県のパンフレットで調べる。 ・VTR を観て，女性や若手が増えている他市（大田市・飯石郡）の林業の現状を知る。 ・松江森林組合の方のお話を聞き，林業の仕事や循環型林業の実際の取組について知る。 ・三瓶演習林で，伐倒の様子を見たり丸太を実際に切ったりする。 ・演習林での体験を振り返り，演習林の方ともりふれ倶楽部や山下先生，松江森林組合の方の想いや願いについて整理する。 ・松江森林組合の方のお話を聞き，現場で林業に携わっておられる方の想いや願い，人手不足で困っておられる現状を知る。 ・これまでの学習で関わった方々から得られた事実を整理・分析してまとめる。 	知② 知① 知① 知① 思③ 知① 思③	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・発言 ・Jamboard ・行動観察
3 自分たちができることは何だろうか？ (21時間) (社会科「情報化社会」の学習と関連) (本時 5/21 時間)	課題設定 情報収集 整理・分析 課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・森林をよりよくしている方の想いや願いに対し，自分たちができることを考える。 ・これまでの学習で関わった方々から得られた事実を改めて見直す。 ・伝える活動の目的を考える。 ・伝える活動までの計画を立て，見通しをもつ。 ・目的を達成するための相手を考える。 ・社会科の学習で，メディアの特徴について理解する。 ・目的を達成するための方法を考える。 ・目的を達成するために，よりよい内容を考える。 ・これまでの学習で関わりのある森林の専門家の方々に自分たちが考えた活動について意見をもらい，今の情報では不十分であることに気づき，どうすればよいかを考える。 ・活動する上で，必要な情報をそれぞれ収集する。 ・振り返りの方法なども含め，よりよい活動となるように活動内容をつくり直す。 ・植林体験を実際に行う。 ・伝える活動をそれぞれのグループで実践する。 	思① 知② 思③ 態① 思① 思③ 態② 知③ 思① 思② 態② 態①	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・Jamboard ・スレッドシート ・発言 ・行動観察
4 自分たちの活動を振り返ろう (10時間)	振り返り・課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・表現 振り返り・価値づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの活動が目的を達成したかどうか振り返っていくことを確認する。 ・アンケートなどを集計する。 ・アンケートなどから，活動の評価をする。 ・これまでの活動を振り返り，成果と課題・改善点を出し合い，まとめる。 ・これまで関わってくださった方に自分たちの考察を伝え，感想やアドバイスをいただく。 ・これまで関わってくださった方と今後について語る。 ・今年の未来創造科で身に付けた力をまとめる。 	態③ 思② 思③ 思④ 思④ 態③ 知④	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・Jamboard ・スレッドシート ・発言 ・行動観察

6 本時の学習

(1) 目標

同じ目的を選んだ子ども同士で、考えを伝え合ったり比較したりする活動を通して、目的に応じて根拠をもって伝える方法を考えることができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

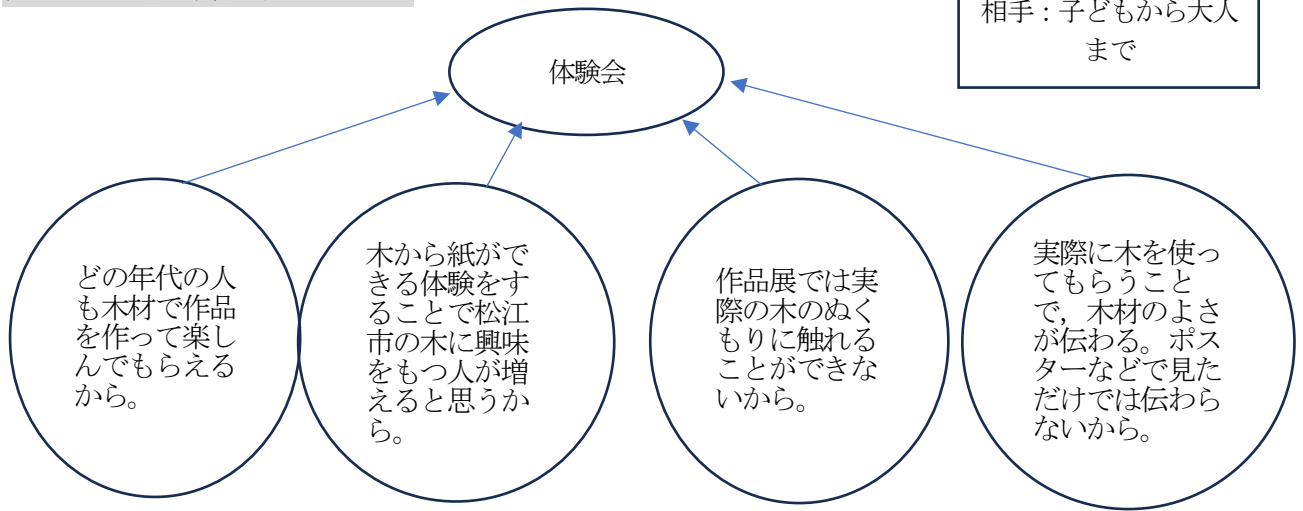
主な学習場面と子どもの取組	目指す姿と取組を支える手立て
<p>1 学習のめあてを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • どんな方法で伝えればいいのか。 • 友だちの意見を見ると、自分の考えと違っていたな。 • 理由を話し合って、よりよい方法を考えたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> • 友だちのクラゲチャートに一度目を通し、話し合い活動にすぐに移れるようにする。 • 本時は目的に合う方法を決定するというめあてを、以前立てた計画を基に確認する。
<p>根拠を明らかにして、目的に合う方法を考えよう。</p>	
<p>2 目的に合う方法をグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポスターや新聞ではあまり子どもの興味や関心は引けないと思う。体験活動ができる場所があれば、大人も子どもも楽しみながら木の良さに触れることができそうだね。 • ポスターよりも、直接伝えた方が想いをより伝えることができ、目的達成につながると思う。ポスターだと見てもらえないかもしれない。 • ○○さんの体験活動の理由が良かったよ。森林の魅力を伝えるために、新聞に体験活動も合わせたらどうか。私たちも体験したとき、木っていいなと思ったから。体験した人に新聞を配ると、より目的を達成できそうだね。 <p>3 各自で決定した方法をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 林業で働く人を増やすためには、やはり林業の現状を伝える必要があるという理由から、ポスターを作って僕たちが学んだことを表現して地域に配る方がよい。 • 実際に僕たちが目の前で宣伝することが効果的だという話から、大きな模造紙に林業のよさや魅力を書いて発表することに決まった。 • 体験活動後、新聞を配ることに決定した。その方が、木材に直接触れて楽しいだけではなく、新聞を読んで木材をもっと使うことの大切さも学んでもらえるから。 <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ①できた②ポスターを作ることに決定したので、目的達成のための内容を具体的にどうすればいいのかを考えていきたい。 • ①あまりできなかった②ポスターにはない新聞のよさが目的達成のために必要だと感じたので、新聞にどんなことを書けばより魅力が伝わるかを考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 複数の視点で話し合っているグループを取り上げ、複数の視点で根拠がある方が目的の達成に向けてよりよいということを共有する。 • 感覚的な理由付けになってしまっている子どもには、その方法が適切であるのかどうかを、再び考えられるようにする。 • 同じ方法を考えた子ども同士だけの意見で早計に決めてしまっているグループには、どうしてその方法に決めたのかを問うことで、再考できるようにする。 • 方法まで決定し、時間に余裕のあるグループには、具体的な内容を考えられるようにする。 <p>【評価の観点（思考・判断・表現）】 目的に応じて根拠をもって伝える方法を考えている。 (評価方法 スプレッドシート)</p>
<p>①「目的に応じて根拠をもって伝える方法を決めることができたか。」②「決まったことを次の学習でどうしていきたいか。」の2つの視点でスプレッドシートに学習を振り返られるようにする。</p>	

(3) 評価

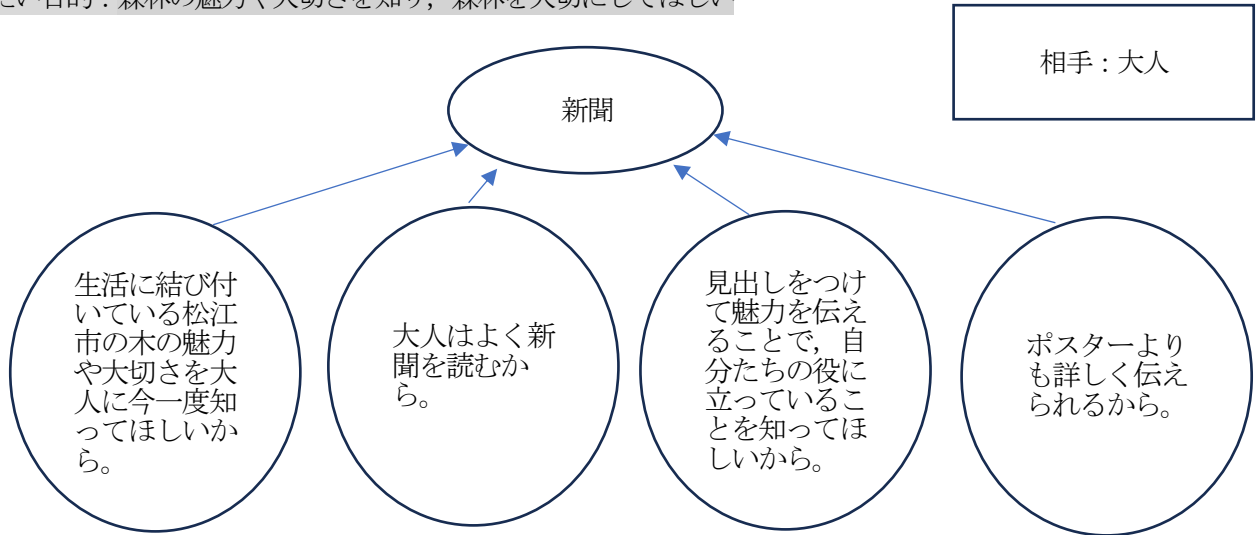
十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
<p>概ね満足できると判断される状況に加え、様々な視点で根拠をもって方法を決定することができる。</p>	<p>自身と友だちの考えた方法を伝え合ったり比較したりする活動を通して、目的に応じて根拠をもって伝える方法を明らかにすることができる。</p>	<p>感覚的な理由付けになってしまっている子どもには、その方法が適切であるのかどうかを、再び考えられるようにする。</p>

クラゲチャート

伝えたい目的：木材を使ってほしい



伝えたい目的：森林の魅力や大切さを知り、森林を大切にしてほしい



伝えたい目的：林業で働く人が増えてほしい

